

電気通信大学 平成19年度シラバス

| | | | |
|---------|-------------------------------------|----------|-------|
| 授業科目名 | 離散数学第一演習 | | |
| 英文授業科目名 | Exercises in Discrete Mathematics I | | |
| 開講年度 | 2007年度 | 開講年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 後学期 | 開講コース・課程 | 昼間コース |
| 授業の方法 | | 単位数 | 1 |
| 科目区分 | 専門科目-学科専門科目-必修科目 | | |
| 開講学科・専攻 | 情報通信工学科 | | |
| 担当教官名 | 尾関 和彦 | | |
| 居室 | 西9 - 603 | | |

| | |
|---------------------|------------|
| 公開E-Mail | 授業関連Webページ |
| ozeki@ice.uec.ac.jp | |

| |
|--|
| 【主題および達成目標】 |
| 「離散数学第一」の講義内容をより深く理解し、その知識を種々の問題に応用できるようにすることを目標とする。 |

| |
|-------------------------|
| 【前もって履修しておくべき科目】 |
| 特になし |

| |
|------------------------------|
| 【前もって履修しておくことが望ましい科目】 |
| 特になし |

| |
|---------------|
| 【教科書等】 |
| 「離散数学第一」に同じ。 |

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容：

内容は「離散数学第一」と同じであるので、そのシラバスを参照すること。

(b) 授業の進め方：

履修者が自分で演習問題を解き、レポートを提出する。授業中は随時質問に応ずる。レポートは可能な限り採点して返却するので、それを模範解答と照らし合わせて、理解の度合いをチェックし、不十分な個所をより確かなものにする。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

a) 評価方法：

成績評価は、正式レポートの評点、出席状況、「離散数学第一」の成績等に基づいて行う。

(b) 評価基準：

「集合と写像」、「論理」、「数学的帰納法」、「同値関係」、「順序関係」などの基本概念を理解していることをもって合格基準とする。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールなどで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

「離散数学第一」の講義を理解し、それを自分のものとして応用できるようになるためには、できるだけ多くの演習問題を解くことが望ましい。また、それにより数学に対する興味も深まる。演習の時間を十分に活用し、基礎力の向上につとめて欲しい。

電気通信大学 平成19年度シラバス

| |
|--|
| |
|--|

| |
|-------|
| 【その他】 |
| |